



【めざす児童像】

☹: 思いやりのある子

☺: さわやか元気な子

☑: ばっちり学ぶ子

学校と家庭で異なる子どもの姿

校長 高田 修司



子どもにも本音と建前があり、学校で見せる姿と家庭（地域）で見せる姿は異なります。

取り巻いている環境や、接している人々が異なるのだから当たり前のことですが、大きく分けると2つのパターンがあるようです。

1つは「学校で良くて、家では良くない」というパターンです。

よくあるパターンです。心配ないでしょう。

学校が「外」「パブリック」という認識があり、ある意味では「場をわきまえて」「心がけて」ということができている、ということでしょう。

2つめは「家で良くて、学校では良くない」パターンです。

こちらは少し気になります。

本来なら安心して、素（す）で過ごせるはずの家庭に、何らかの「身構える」「緊張する」状況があり、その反動が他で出てしまっているからです。



さらにこの場合、学校や地域の方から「良くないんですよ…」と保護者に話があっても、家庭で見ているわが子の様子からにわかに信じ難く、結果として対応が遅れてしまいます。

さて、お子さんはどちらのタイプでしょうか？

「学校教育アンケート」の結果について



本校では「保護者を巻き込みながら地域と共に歩む学校づくり」「かかわりあい、認め合い、高め合う人間関係づくり」「心身共に健康な児童の育成」「児童の学ぶ意欲の向上と確かな学力の定着」に重点をおき、日々の教育活動を進めています。

7月に学校教育アンケートを実施しましたが、これらについて第2回学校運営協議会で集計報告をし、分析・検討をしていただきました。概要は以下のとおりです。

- ・学校支援活動に参加してくれた保護者が、昨年度比で約1割増えた。
- ・地域での行事や活動に参加した児童の延べ人数は約4割増えた。
- ・約3割の保護者は「あたりまえ10箇条」を知らない。
- ・児童の挨拶の様子は、「すすんで」という部分に課題がある。
- ・履き物揃え、正しい姿勢など、校内では出来ているが、校外での評価が低い。
- ・学校に「いじめがある」と感じている児童や保護者は減少した。ただし、教職員は「常に」「どこかに」「いじめがあるのでは？」という認識、意識で指導にあたっている。
- ・全体として児童の学ぶ意欲は高まってきており、学力も向上している。

※ 12月に2回目を実施する予定です。回答へのご協力をよろしくお願いいたします。